

好きです  
わたしの  
すかがわ

# 須賀川 事典 俳句編

ENCYCLOPEDIA  
SUHAGAWA  
CITY

じす  
てか  
んが  
わ



「須賀川は、俳句の街です」

そんな言葉を耳にしたことはありませんか？

須賀川の歴史は古く、旧石器時代の遺跡や奈良・平安時代の史跡などがのこるこの地は昔から多くの旅人が行き交う、東北地方の主要な宿場でした。

「おくのほそ道」の旅の途中にこの地を訪れた松尾芭蕉もそのひとり。

俳諧の友人である相楽等<sup>あがらとう</sup>を訪ねて須賀川の俳人と交流を深めました。

そうした俳諧を楽しむ人々の交流を通して、季節の移り変わりをめぐる心、日常の中にあるものを感じる心、先人を敬う心などを育みながら、俳句は須賀川のひとつに受け継がれてきました。

今を生きる私たちは、長い年月を通して受け継がれてきた俳句のバトンを受け取り、未来へつなげていく途中にあります。

「須賀川事典」は、今まで見過ごしていた街の歴史や、気づいていなかった豊かな営みなど、さらさらした魅力を放つ、須賀川のかげやく「星」を拾い集めた「事典」です。冊子を通して私たちのふるさとの魅力が、みなさんに届きますよう、願いを込めて作りました。今回は「俳句編」

須賀川に息づく俳句とひとびとのつながりを伝えるとともに、世界で最も短い詩と言われる17文字の世界から広がる未来の可能性を紹介します。

「須賀川事典」を通してふるさとを誇りに思う心に新たなかがやきが増しますように。

風流のはじめ館



俳句をつくりながら、地域の魅力を再発見

# 俳人・堀本裕樹さんと行く 須賀川市吟行&句会レポート

五七五のリズムに乗せ、季節の言葉『季語』の力を借りて詠む、世界で一番短い詩、俳句。机の前に座り、頭の中で考えながらつくるのも一つの方法ですが、外へ出かけ、季節を肌で感じながらつくる『吟行』をすると、より生き生きとした俳句が生まれます。また、普段とは違う視点で風景を味わうことによって、それまで気づいていなかった地域の魅力と出会えることがあります。2022年11月中旬、秋の須賀川市の魅力を俳句にしようと集まった、俳人の堀本裕樹さんと須賀川市の学生3人による、吟行と句会の様子をお届けします。



## 吟行編

季節と須賀川市の魅力を  
見つけに、いざ吟行へ

この日、須賀川市から集まったのは須賀川桐陽高校の下斗米悠とみさん、国際ビジネス公務員大学の佐藤耕介さん、福島大学の大槻千明さんの3人。下斗米さんと大槻さんは俳句づくりの経験はあるものの、佐藤さんは俳句初心者。緊張する3人に「今日は楽しみながら自由に詠んでいきましょう」とリラックスさせる堀本さんを先頭に吟行はスタート。

みちのくサイクリングロードを自転車で行く、りんご畑の上をトンビが飛んでいる様子を見て「冬林檎たわやとまの輪の下のと」、堀本さんが早速一句。隣で大槻さんも句帳にペンを走らせません。その様子に「どうしよう、何も浮かばない」と焦りながらも、見たことや感じたことをメモする下斗米さんと佐藤さん。松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅で立ち寄ったとも伝えられている八流の滝では、滝の流れる様子に耳をすませつつ、滝の上へと登っ

てみたり、小川を渡ってみたりと、思い思いの視点で滝を眺めていた4人。さらに自転車走らせ、阿武隈川を渡って向かったのが、市の指定史跡・和田大仏及び横穴墓群。道から少し奥まった崖面に彫られ、知らないを通り過ぎてしまうような場所にある和田大仏の姿に、「こんな所があったんだ」という驚きの声があがります。ここではたくさんのインスピレーションがわいたのか、出発をうながすと「すみません、もう少しだけ待ってください」という声もあがるほどでした。続いて向かったのは乙字ヶ滝。大きな音を立てて流れる川の流れに沿って散策をした後は市街へ。

初めて須賀川市を訪れたという堀本さんにウルトラヒーローや怪獣のモニュメントが立ち並ぶ松明通りを案内し、最後に向かったのは須賀川牡丹園。この日に行われた、須賀川市の伝統行事であり、冬の季語として歳時記に収録されている「牡丹焚火」を4人で見学。最初は赤く燃え盛っていた炎がすっかり小さくなるまで、暗闇の中じっと見つめる一行。その合間にも、会場に置かれたランプの明かりを頼りに句帳に感じたことを記していました。



## ほりもと・ゆうき

1974年、和歌山県出身。俳人。俳句結社「蒼海」主宰。2022年度「NHK俳句」選者。著書に句集『熊野曼陀羅』（文学の森）、『一票』（駿河台出版社）、又吉直樹との共著『芸人と俳人』（集英社文庫）、穂村弘との共著『短歌と俳句の五十番勝負』（新潮文庫）、『俳句の図書館』（角川文庫）、『桜木杏、俳句はじめてみました』（幻冬舎文庫）など多数。



## 選句編

吟行で出会った魅力を  
俳句にしてみんなを披露

吟行が終わり、風流のはじめ館へ移動して、いよいよ句会がスタート。まずは4人それぞれが良いと思って選んだ句を読み上げる「披露」が行われました。句会によっては参加者が良いと思って選ぶ句がかかることもあるようですが、この日はほとんどかぶらず。選んだ句の感想を3人が述べることに、句をより良くするためのアドバイスをする堀本さん。その言葉を聞き逃すまいと、3人も熱心に耳を傾けま

す。選ばれなかった句についての批評も行われ、1時間半におよんだ句会が終了。堀本さんが吟行と句会の感想をたずねると「句会は初めてだったのですがとても楽しかったです(下斗米さん)、「誰かと一緒に句を味わえることが句会の魅力だと思うのですが、それをみんなできて良かったです(大槻さん)、「ここから少しずつ俳句の世界に入っていたみたいと思いました(佐藤さん)」と、一緒に吟行と句会をできた喜びを語っていた3人。続くページでは、句会の様子の一部をお届けします。



### 下斗米悠選

【佳作】 冬の空ちよつと遠くへ行行ってみる——11  
サイクリング心に豊かさ目にスキ——18  
【特選】 和田大仏冬めく道によく潜む——5

### 佐藤耕介選

【佳作】 今だけはすべて忘れん冬日和——1  
小春日の倒木に滝しぶきけり——9  
【特選】 銀杏黄葉かつては大仏彩るか——6

### 大槻千明選

【佳作】 野の路に冬の蝗のよろけ出づ——12

ざわざわと枯野の底の鳴りにけり——14  
【特選】 胸に火の立つまで牡丹焚火見つ——17

### 堀本裕樹選

【佳作】 今だけはすべて忘れん冬日和——1  
和田大仏冬めく道によく潜む——5  
牡丹焚火その火は我を清めるか——7  
冬の空ちよつと遠くへ行行ってみる——11  
【秀逸】 語らずも牡丹焚火に一つかな——8  
【特選】 全身で落葉のなかに沈みけり——2

【作者】 1、2、8、11…大槻/5、18…佐藤  
6、7…下斗米/9、12、14、17…堀本

## 句会編

堀本 下斗米さんの特選は5番。下斗米 はい。和田大仏は本当によく探さないとわからない場所にあつて、その状況をよく表現しているなど思い選びました。

堀本 そうですね。まだ立冬からそんなに経っていないから「冬めく」という時候の季語が合いますね。そこに和田大仏に通じる短い道へ想いを馳せていて、良い句ですね。では5番、作者はどなたですか？

佐藤 はい。和田大仏の第一印象が、こんなになつと隠れているものなのかというところで、でも道を進んでみたときの広大さがすごかったので、よく潜んでいるなど感じました。道の中にあつたので、季語を組み合わせて「冬めく道」にし、さらに隠れている様子を「よく潜む」と表現しました。

堀本 そうですね。あれは案内してもらわないと通り過ぎてしまうような、ひっそりとした感じがありましたね。それを「冬めく道によく潜む」と表現したのが、なかなか良いですね。下斗米さんは11番を佳作に選んでいるけど、なぜ選んだのでしょうか？

下斗米 冬空の下をサイクリングで少し

遠くへ行くことを実際に体験したことが非常に印象に残ったからです。

堀本 この「ちよつと遠くへ行行ってみる」という気軽な感じがとても良いなと思っていましたね。僕はけっこう遠くから来たわけですが、みんなは須賀川市で暮らしているから「ちよつと遠く」という言葉がスツと軽やかに出てきたのだと思うんですね。胸のつぶやきをポツと一句にしたような俳句だと思います。さて、これは誰でしょうか？

大槻 はい。これはちよつと柔らかい、軽い感じにしたいなと思って「ちよつと遠くへ行行ってみる」としました。冬の空が広くて高くてきれいだなと感じながら、地元で慣れているはずなのに新しい景色を見ているような感じもして、その弾む気持ちみたいなものを詠んでみました。

堀本 地元でもちよつと足を伸ばせば「こんな良い景色あるんだ」と気づくときがありますよね。僕は7番を佳作で選んだのですが「その火は我を清めるか」と、詠んだ人の中には清めたいものや、心理的に燃やしたいものがあるのかなとも感じました。自分の心の内側を見つめなおす句になっていると思うし、こういう詠み方も良いですね。作者、どなたでしょうか？

下斗米 はい。堀本さんが仰ったとおりで、今まで生きてきた間にいろいろな人

と会ってきましたが、その中の何人かには嫌なことを心の中で思ったりしたこともある。その心の中に溜まった汚れのようなのを、牡丹焚火の火は清めてくれるだろうか、浄化してくれるだろうかと思ひ、この句をつくりました。

堀本 なるほど。下斗米さんの話を聞きながら、自分がちよつと浄化されるような気持ちになりました。でも、人のことを妬んだり、みんな誰しもがいろいろな感情を持っている。そんな自分の気持ちを少しでも清めたいと、自分の心を清く見つめているところが良いなと思います。ひとつの青春性が出てくる感じがします。良かったですね、牡丹焚火を見られて。自分の心の内を言葉にするのは大人でも大変なことですが、皆さん今日はよく頑張って言葉にしてくれたと感じます。思っていることを言葉にできない、ましてや俳句にできずに悶々とした時代

が僕にもありました。一生懸命に俳句に向き合いながら人生経験を積んでいくと、自分の心や詠みたいことを俳句に過不足なく表現できるようになります。でも松尾芭蕉が最後の最後まで自分の表現を求めたように、俳句というものはどこまでも追求できる。それが俳句の豊かさであり、楽しさです。今日の良き吟行と句会を出発点に、ぜひ今後も俳句を続けてほしいなと思いますね。



# フムフム 俳句のイロハ

俳句を詠む前に  
まずは基本を  
知っておかないと、

画文かつしかけいた



俳句と言えは  
「季語」！  
歳時記で  
調べてみよう

俳句  
歳時記

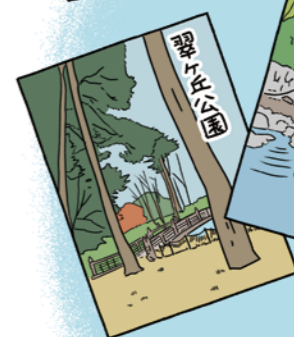
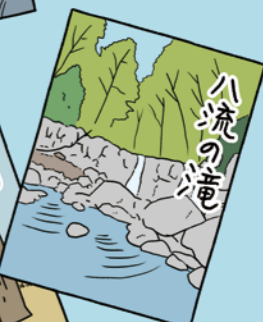
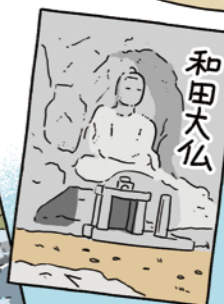


# ハ 吟行

外も散策しながら  
俳句の題材を探す  
ことも「吟行」と言っ



乙字ヶ滝や  
翠ヶ丘公園も  
俳句の題材が  
たくさんありそ  
うだし、  
近所の公園で  
探してみても  
よそそ、う！



句ができたら  
「句会」に参加してみよう！



# 新年



書の初  
松の内  
雑煮  
明の春

# 春



# 夏



春の山  
ぶらんこ  
山竹笑う  
ボートレース

海の家  
甘酒  
肝試し  
サ母

# 秋



# 冬



林檎  
月見  
稲刈  
ラフランス

松明あかし  
ラグビー  
牡丹焚火  
鮭

「春の山」の  
ように  
わかりやすい  
季語もあれば  
「ボートレース」  
「ラフランス」  
「ラグビー」  
のような  
外国語まで  
あるんだね  
「甘酒」が  
夏の季語なのも  
意外！

# 一句詠んでください 春・夏編

※所属・肩書きは発行当時

## ほーろりろ岩崎山に花の雲



**板橋 駿谷**  
俳優  
散歩の時に見た風景です。  
「花の雲」は須賀川の女性の俳人  
市原多代女の辞世の句から  
拝借しました！

## 坂の道鼻をかすめる春時雨



**石井 睦子**  
古物屋時雨  
店の屋号を決めようとしていた時に、「時雨塚の坂」と名付けられた坂道を知りました。翠ヶ丘公園へと下るこの坂道を通って、桜を見に行った春の頃だったと思います。雨の匂いを鼻で感じ取るように、何かを受け取ったような気がしたのです。



四季折々の風景や季節の行事が盛んな須賀川。そんな須賀川に関わりの深い方々に「私の好きな須賀川」を俳句で表現してもらいました。あなたが好きな須賀川も俳句にしてみませんか？



**沢田 隆志**  
tette-1階カフェ GALATA COFFEE  
毎年7月14日に開かれる「きつり天王祭」では、須賀川の特産品のきゅうりを2本供え、お札がわりに別のきゅうり1本を持ち帰り、それを食べる。1年間病気にからないといわれています。

## 人の列胡瓜求めて声はずむ



**沢田 はな**  
tette-1階カフェ GALATA COFFEE  
「ぼたん」とも表現する牡丹。淡い牡丹色よりも情熱的な赤い牡丹を表現しています。

## 牡丹色勝る情熱赤ぼたん

# 夏

# 俳句が見出してくれる、 小さいけれど確かな幸せ

★輝け、須賀川の星★



須賀川市の若き俳人として、  
今後の活躍を期待されている大槻千明さん。  
テレビやラジオ番組への出演などを通して、  
俳句の魅力を発信しつづけている神野紗希さん。  
俳句をこよなく愛する2人に、  
あらためて俳句の魅力を語ってもらいました。

“いま”を肯定する気持ち  
を育んでくれる俳句づくり

**神野** 須賀川市は俳句の香りが豊かな街だけど、私が生まれ育った愛媛県松山市も正岡子規をはじめ俳人をたくさん輩出している街で、小学校の夏休みの宿題には、俳句づくりがいつも出ていたんですよ。それが当たり前のことだと思っていたくらい、俳句は身近な存在でした。

**大槻** 須賀川市では小学生向けの俳句教室が開催されていて、俳句をつくる小学生が多くいます。でも私が小学生だった頃は、学校では本当にたまにしか俳句教室は開催されていなくて。

**神野** でも、大槻さんは俳句づくりをやめずに続けているじゃない？ それはなぜなのかな？

**大槻** 高校の文芸部に入ってすぐ、桔槔吟社が主催の俳句の集いに参加することがあって。そこでつくった「見上げれば空に向かふや紫木蓮」という俳句を先生に褒めていただき、「俳句って楽しいな」と感じてはまりました。

**神野** ほぼ初めての俳句づくりで、紫木蓮を季語として認識していることがすごい！ なぜ紫木蓮を選んだの？

**大槻** そこまで深く考えていたわけではないのですが、家におばあちゃん

の思い出の木である紫木蓮があった。その紫木蓮がパツと頭に思い浮かんだので俳句にしたんです。

**神野** そうか、おばあちゃんとの記憶がつまった木だからこそ、見上げたときに空とぐっと近くなるような感じがしたんだね。

**大槻** はい。でも、大学受験を期に2年半ほど俳句から離れていたんです。その間は俳句をつくらないぶん苦しいこともなかったのですが、毎日が味気なくて。そんなとき、自分が以前に書いた句をふと読んだら、俳句をつくることで、さまざまな出来事が記憶に残ったり、小さなことに気付いていたりと、毎日を楽しく過ごせていたと感じて。「やっぱり俳句をやりたい」となって、またづくり始めたんです。

**神野** おかえりなさい！ 自分では忘れていたようなことが、当時つくった俳句の中はまだ生きているのを確認すると「あったあった」と懐かしくなったりしますよね。例えば冬の陽射しが障子から漏れているのを見て「いいな」と思っても、誰かに話したり、写真を撮って送ったりまではしない。でも自分にとっては大事なことだったりする小さな発見を、俳句は喜んでくれる。日々暮らしている中で大きな出来事はそんなに訪れないけど、俳句をやるとして良いか悪いかばかり考えていると、俳句との距離を感じるようになってしまつて。やっぱり自分の中で俳句が好きだと思えることが大切なのだなと思います。

ちの言葉や感性が、大槻さんの創作にも返ってくるような気がしますよ。

**何よりも大切なのは、  
俳句が好きだという気持ち**

**大槻** でも若い人が書いた俳句を見ると、若々しくキラキラしているように感じて「なんか自分の俳句は湿っているな」と悩んでしまいます。小林一茶の「大の字に寝て涼しさよ淋しさよ」や、与謝蕪村の「寒月や僧に行き合ふ橋の上」といった、しみみりとした句が私は好きで。そういう暗めの俳句をつくっては「若々しさが無い」と言われてしまいがちなんです。

**神野** いや、それは個性だから！  
**大槻** 逆にそういう暗さを詠もうとしてしまふときもあるの、個性なのか自分が勝手にイメージをつくっているのかわからなくなったりもします。

**神野** それは創作につきまとう悩みだよ。でも結局は、できた俳句を自分で好きと思えるかどうかじゃないかな。「人に褒められるけど、私の俳句じゃない」「この俳句は私じゃなくてもつくれる」みたいに感じることはない？

**大槻** あります！ あと「自分が俳句を好きじゃないと、俳句のほうからも来てくれないな」とも思います。作品

## こうの・さき(左)

1983年、愛媛県松山市出身。高校時代、俳句甲子園をきっかけに俳句を始める。現代俳句協会副幹事長、聖心女子大学・立教大学講師。句集に『すみれそよぐ』(朔出版)、著書に第34回愛媛出版文化賞大賞を受賞した『日めくり子規・漱石』(愛媛新聞社)、エッセイ集『もう泣かない電気毛布は裏切らない』(文春文庫)など。

## おおつき・ちあき(右)

2001年、福島県須賀川市出身。高校時代より俳句を始める。2018年に「見上げれば」で第71回福島県文学賞 俳句部門 青少年奨励賞、翌19年に「十七文字の日記」で第72回福島県文学賞 エッセー・ノンフィクション部門青少年奨励賞を受賞。

いと毎日の中に喜びを見出しやすくなるんですよ。

**大槻** その感覚、あります。いま私は中学校の国語科教員になることを目指していて。もし教員になれたら、俳句のそういう部分を生徒たちに伝えられたらと考えています。上手くいかないことや不安、やらなければならぬことがたくさんある中で、俳句をつくるのが癒しじゃないですけど、何か新しい意味を持ってくれるのではないかと考えているので、目標を実現できるように頑張りたいです。

**神野** 教育の現場で、子どもたちが自分が面白いと感じたものを持ち寄り、それを俳句にして見せ合ったりするのは、「いま」を肯定する気持ちや育てる大事なことだと私も思います。俳句はどんな句であっても、そこにその人の視点が表れていたら「その俳句、いいね。これも、それもいいね」と、全てを肯定できる詩形だと思うんです。ひとつの正解があるというよりも、それぞれ正解があるから「そういう物差しもあるんだ！」と気づくことができる。これは子どもたちにとっては、新鮮なことかもしれないですよ。「いまでも？」って、どんな俳句をつくっている子がいる？」って、また大槻さんにお話を聞きたいな。それとね、子どもた

とて良いか悪いかばかり考えていると、俳句との距離を感じるようになってしまつて。やっぱり自分の中で俳句が好きだと思えることが大切なのだなと思います。

**神野** そう、愛したぶん愛が返ってくるから。「汝の隣人を愛せよ」じゃないけど「汝の俳句を愛せよ」だね。大槻さんのような同志が須賀川にいて、私を、私は心強く思います。

**大槻** ただ、周りには同年代の仲間が少ないので、もっと増やしていければなと思つています。

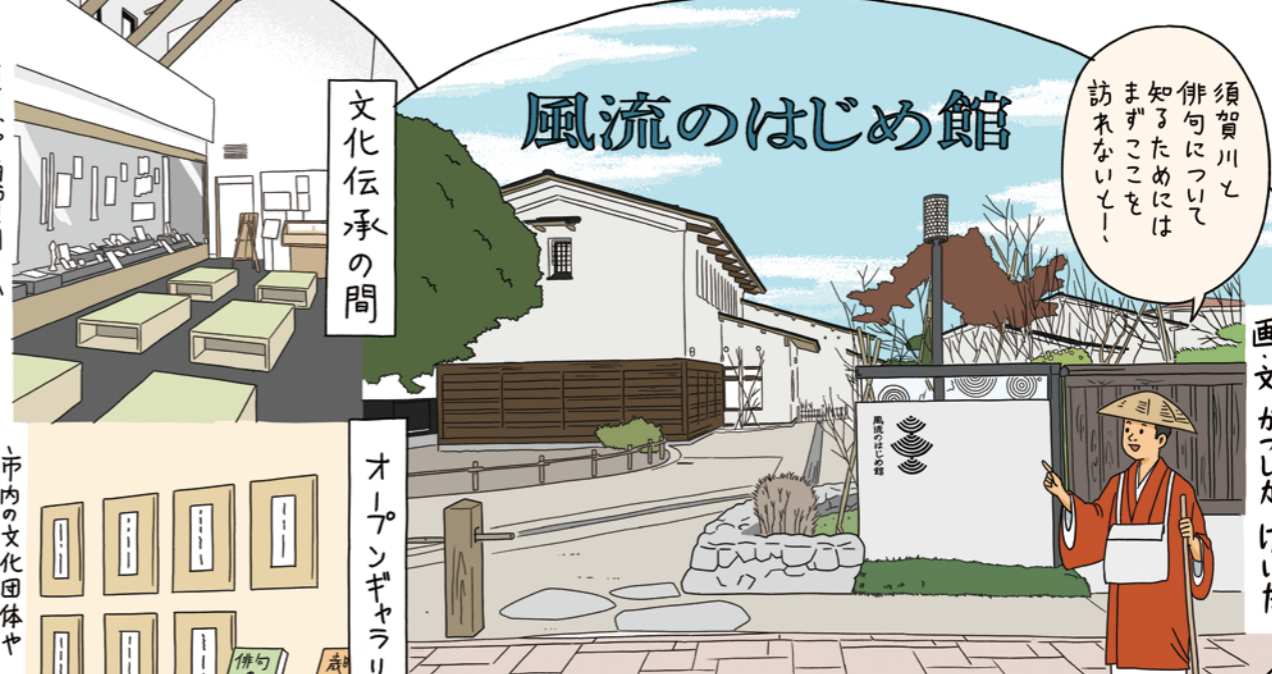
**神野** 俳句って、古いとか難しそうとかいろいろな先入観があるもの、こんなに簡単で楽しいものはないんだけどね。「俳句らしい言葉にしよう」と考えるとハードルが高くなるけど、自分のことや生きている「いま」が全て俳句になるから。例えば、いつも使っているマフラーや通学途中に見た空の色でも、何でも俳句の題材になる。東京だと電車に乗っていると見えるのはビルの窓ばかりだけど、須賀川駅に向かう電車の中からは四季を感じられる景色をたくさん見られて素敵だと感じて。須賀川市の皆さんが、自分のいる場所をもう一度確認するような気持ちで眺めて、そこで見えたものを詠んだら、絶対い俳句になりますよ。

# フムフム 須賀川と俳句

画文かつしかけいた

須賀川と俳句について  
知るためには  
まずここを  
訪ねないし！

## 風流のはじめ館



2020年秋「須賀川市風流のはじめ館」がオープン  
俳句文化を中心に多様な和文化を  
世代を越えて学び楽しむ場所となった

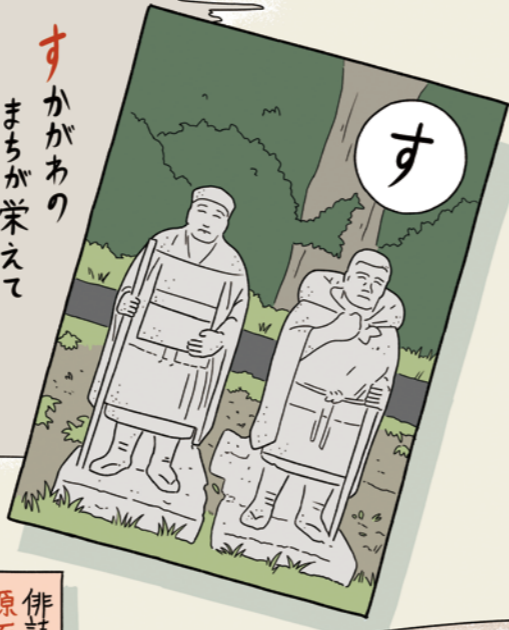
文化伝承の間

芭蕉や須賀川中かりの  
俳人たちに  
関する資料も  
歳時記に合わせて紹介

オープングャラリー

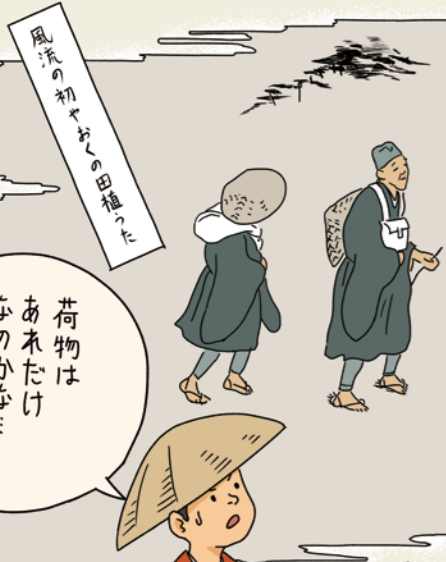
市内の文化団体や  
こどもたちの作品が紹介されています  
和文関連書籍も揃う

## 須賀川と俳句



すかがありの  
まちが栄えて  
俳句も盛んに

須賀川は  
奥州街道の宿場町として栄え  
商家の主たちが俳諧に親しんだ  
須賀川俳壇の中心人物 相楽等躬は  
松尾芭蕉とも親交があり  
「おくのほそ道」の旅に出た芭蕉は  
等躬を訪ね  
須賀川に八日間滞在した



荷物は  
あれだけ  
なのかな…

## 夏休み こども俳句教室

はじめ館で  
毎年夏休みに  
開催されている  
こども俳句教室

俳句の題材探し



講師の添削  
俳句の整理



子どもたちには  
自由につくってもらって  
います  
頭で考えた句と  
実際に見たものを  
詠んだ句は  
ちがいますね

清書・発表



外に出て  
題材を探すのは  
楽しそうだなあ



こどもたちに人気の  
言葉遊び



思わず笑っちゃう  
ような句ができた  
遊びながら  
俳句を学べるんだ

## 俳句ポスト

ドキドキ  
するな…

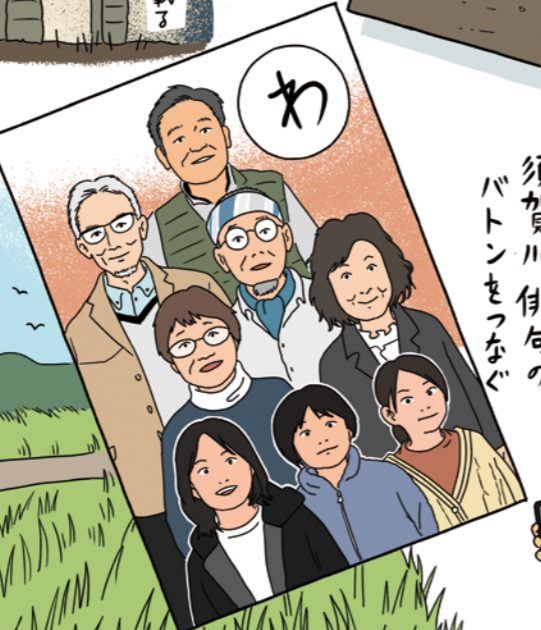


市内21ヶ所の  
早稲勝地などに  
設置されている

次世代育成の取り組みも  
多く展開されている

オンラインでの  
句会や投句など  
デジタル化の試みも  
行われていますよ

わたしたちが  
須賀川俳句の  
バトンをつなぐ

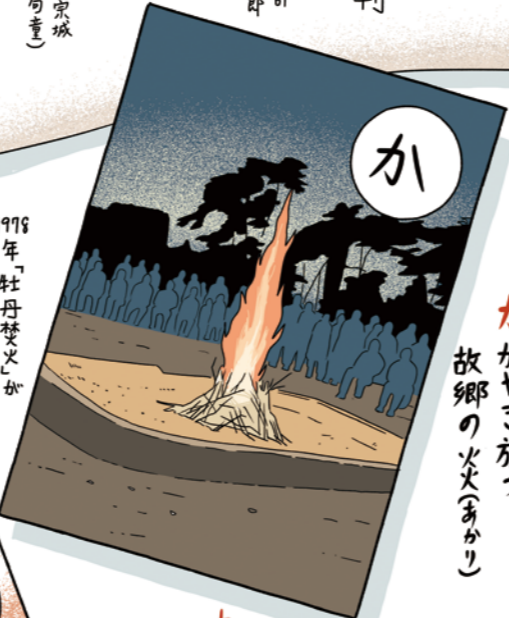


須賀川俳句の歴史は  
詠みつけてきた  
地元の人たちの歴史でも  
あるんだな

初心者だからと  
こわがらずに  
歳時記片手に  
身近な場所を  
吟行してみよう！



## かがやき放つ 故郷の火あかし



1978年「牡丹燈火」が  
冬の季語として  
講談社歳時記に載り  
2018年には「松明あかし」が  
冬の季語として  
角川書店  
「俳句歳時記第5版冬」に載り

地元の人たちが  
詠みつけてきたことで  
2つの行事が  
歳時記に載りました



## か



俳誌「鹿火屋」主宰  
原石鼎が  
「はあつるべ(桔槔)」が  
いつも新しい水を汲み上げたように  
常に新しい俳句を  
目指してほしいと命名  
戦争による休刊をはさむも  
戦後復刊  
会員を全国に広げ  
2010年には1000号を達成  
2022年に創刊100周年を  
迎えた

初代  
須賀川市長  
岡部宗城句堂も  
桔槔創立同人の  
ひとりなんだ

かけた情熱は  
はかりしれず



須賀川への  
プレゼントだ  
思っています

桔槔吟社  
同人 永瀬十悟さん

# 俳句もラップも、 みんなの文学

いとうせいこう

板橋駿谷

俳優だけでなくラッパーとしての顔を持つ、須賀川市出身の板橋駿谷さん。ジャパニーズヒップホップの先駆者であり俳句にも造詣が深い、クリエイターのいとうせいこうさん。ふたりに俳句とラップの魅力、そして意外なほどたくさんある共通点について、たっぷり語ってもらいました。

## 俳句にもラップにもある 場と感情を分かち合う力

**板橋** 実は俺、いとうさんが俳句コンテストの審査員をされていたことをずっと知らなかったです。

**いとう** 第一回から参加していて、途中で何年間か抜けたけど30年以上やっているんですよ。一緒に審査員をされていた金子兜太さん（※1）に、僕は本当のおじいちゃんかのように懐いていて。ありがたいことに、金子さんに俳句のことをいろいろと教えてもらったんです。その中で重要なことのひとつが、俳句が持っている想いを分かち合う力みたいなもので。もともと俳句には、和歌から生まれた連歌（※2）や、連句（※3）の伝統があって、ひとつの場に「座」という共同体として集まって、みんなで詠みあっていた。この中で最初に詠まれる五七五を俳句といって、これが独立したのが俳句なんです。この発句は会の主催者が詠むものだけど「みんな来てくれて良かったよ。今日はこういうパーティーなんだよね」と気持ち良いことを詠わないといけない。

**板橋** そういうルールなんですね。  
**いとう** そう。これは挨拶句と言われているのだけど、これから独立したの

が俳句だから、きつと俳句にもどこかには挨拶や場を共有する気持ちが入っているべきなんですよ。でも、いまは座を組まないから、俳句が持っている共有という力みたいなものがあまりない。

**板橋** 俺、俳句の面白さって共有力だとすごく思っていて。例えば、何百年前に詠まれた句でさえ「あ、なんかわかる！」って時を越えて感覚を共有できるのが面白い。せいこうさんはラップをやられていますけど、このラップも現代の共有の面白さだから、俳句とラップには共通点がすごくあるなとも感じていて。

**いとう** 特にフリースタイル（※4）のラップで言ったら、パーティーの参加者の中に場違いな格好をしている人がいたら「おまえ、ドレスコードがおかしいんじゃない？」というようなことをラップで言ったりするのは、まさに座があるからなんですよ。

**板橋** あと、連句について調べたときも「これ、サイファー（※5）だな」とも思っています。

**いとう** そうなんですよ。どちらも円を組んで行うから形も全く同じ。

**板橋** それと、俳句の五七五の中に季語を入れるルール。俺も趣味でラップをやっているんですけど、ラップには

8小節といった尺がある程度あって、その中で韻を踏むルールがある。だから「ほとんど一緒だ！」と驚いて。

**いとう** そうでしょう？僕はラップを始めたときから日本的な文化とドッキングしているなと思っていました。だけど、それを他のラッパーがあまり知らないから話そうとすると、みんな話半ばでどこかに行ってしまう（笑）。

**板橋**（笑）。  
**いとう** でもこれって昔からあることだから、逆にいったら現代でも利用できるわけなんですよ。

**板橋** そうですよ、季語みたいなキーワードを入れることを、わかりやすくやっていけば共有感が生まれるし、もつと表現が広がっていく可能性がすごくあるな。俺の好きなラップパーソンの一人に、まさに季語のような言葉を使ってラップを書く方がいる。例えば、「缶コーヒー、アスファルト」と言っただけで、肉体労働をしていることや、そこに生まれる淋しさのようなものが見えてくる。  
**いとう** そうだね、日常の季語。

## 「俳句というのは韻の塊」と 金子さんは40年前から言っていた

**板橋** 日本語ラップの季語みたいなものを考えるべきなのかなとも思いました。

**いとう** いまは昔と季節がずれているから、自分たちで決めていけばいいんだよね、ラップ季語を。ラップは韻を踏む、特に4小節の終わりに同じ響きの単語を置いて、繰り返しのリズムを生む脚韻を踏むのが良いとされるのだけど、日本語は文法的に「です」や「じゃない」が最後にくるから脚韻を踏みに





## いたばし・しゅんや

1984年、福島県須賀川市出身。劇団「ロロ」「さんびん」に所属。主な出演作に、『サマーフィルムにのって』(2021年)、『マイスマールランド』(2022年)、『異動辞令は音楽隊』(2022年)、NHK連続テレビ小説「なつぞら」(2019年)、NHK大河ドラマ「青天を衝け」(2021年)、舞台オールナイトニッポン55周年記念公演「あの夜を覚えてる」(2023年)などがある。



## 俳句を音楽に合わせて 踊ってもいいわけですよ

く。そのことは金子さんも…金子さん、ヒップホップという言葉をずっと覚えられなくて、ラップラップと言っていたのだけど、「君のラップラップは脚韻を踏んでいるそうだな。だけど俳句というのは韻の塊だから、そんなものを踏む必要はないんだ」と40年前から言っていましたね。

**板橋** それはすごい発見ですね！

**いとう** そう、すごい。でもその通りなんだよね、同じような響きの言葉を一定の間隔で並べるのも韻だから。例えば、正岡子規の「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」は、「かきく」までが力行の五十音通りの発音で。続く「鐘」の「が」も、最初の「柿」の「が」と韻を踏んでいる。で、さらに「鳴るなり」は「なるなり」でナ行とラ行の連続の組み合わせになっている。

**板橋** すごい！

**いとう** そう、すごい。これが日本語の韻の踏み方なんです。だから脚韻なんか踏む必要がない。

**板橋** めちゃくちゃ細かく韻を入れられるということですよ。

のリズムが染み付いているはずで、だから聞いていると気持ちよくなる。盆踊りも、同じ音頭を何度も繰り返しながら、櫓（うし）のまわりをぐるぐる回ってトランス状態になっていくものだったと思いますし。

**いとう** だから休符のあとが気持ちで埋まっているんですよ。俳句はすごく静かなもののように思われているけれど、音楽にのせたとき「なんか共有感があつて、つい踊っちゃった！」みたいになるのかなとも思っています。

**板橋** もともと「連なる歌」と書く連歌からきているのだから、踊ってもいいわけですよ。

**いとう** あと、僕はあの休符の中には「うんっ！」とか「よっ！」という合の手が入っていたのではないかと思うんですよ。やっぱり、良い句の言葉を聞いたら、思わず「うんっ！」とか自然に出ますよね、「おっ!? 次どうするの?」みたいな。そういう風にコール&レスポンスになっていたのが僕の説です。確か金子さんにも言ったような気がしますけど、「んっ、そうだな」と返されて話が終わったような。「当たり前じゃん?」みたいな感じで。

**板橋** 「いまさら何言ってるの、おまえ!」みたいな(笑)。

**いとう** そうそう(笑)。でも、その

**いとう** どうせ1音で、もったりとしたものが続くのだから、そのもったりとした音を利用して、いろいろなところに力行をいれたりナ行を入れたりとか考えると、俄然違ってくる。

**板橋** あと音が連なっていくというのは、耳触りも絶対良いはずですよね。

**いとう** そうそう。ということは、聞いている人も「おっ?」と思う。

**板橋** 「なんかわからないけど引き込まれる!」って。

**いとう** 本当は韻を踏んでいないこともないですよ、俳句も。

**板橋** 韻っていうと、絶対に小節の一番後ろの単語で踏むイメージがあるけどそうじゃなく、音として入れこめるっていうことですよ。それこそ1音という音…ドレミファソラシドみたいになっていくような。

**いとう** そうだね、音楽的になっていく。つきつめていけば、日本語のわからないケンドリック・ラマー(※6)だって驚くものができるかもしれない。「なんだこれは!」小節の終わりですとも韻を踏んでないのに、なんで踏

感覚を現代の僕たちが、俳句の中から忘れてるのだと思う。

**板橋** 俳句を勝手に神格化しているというか。

**いとう** 明治時代の文学者たちは江戸時代まで続いていた文学を嫌い、「座の文学は地位の低いもので、文学とは一人でやるものだ」と座を攻撃して全部なくさせたんですよ。これに対して僕は「違うな」という気持ちがあつて、座になってできる文学のことを常に考えているし、明治に行われたそういう運動に対しては令和で変えてやりたいという気持ちがあります。だから須賀川市の皆さんには、俳句を楽しむ座をつくって、俳句で遊んでほしいです。

### みんなが楽しんでこそ

### 発揮される俳句の魅力

**板橋** 俺もラップをつくるときに一人でつくるのはつまらないと思っていて。やっぱりみんなが何かをやったと

んでいる感じがあるんだ!?」って。

**板橋** いま世界でトップのラッパーである彼が驚いてくれたら、なんかうれしいですよ。

**いとう** それはもう、世界を驚かしたことになるからね(笑)。

### 俳句を音楽に乗せて

踊ったっていいはず

**いとう** 俳句をラップで詠むときに困るのは、五七五を西洋的なリズムに合わせる。「なんとかや、ウン、なんとかや、ウン」とかや、ウン」と休符が入ってしまうこと。この休符が入ると、とたんに盆踊りとかの音頭みたいになってしまう。この音頭っぽさを消すために僕は当時すごく技術的なことをやったのだけど、いまの若いラッパーは休符を恐れなよね。

**板橋** 全然。むしろ新しいとさえされています。

**いとう** 逆にいうと、音頭なんてものを聞いたことがない人が増えたことですよ。だからこそ盆踊りのイベントが若い人の間で盛り上がっていたりする。

**板橋** もともと日本人には、その音頭

きに生まれるもののほうが面白いなっで。

**いとう** 俳句もそうだよ。一人でやっているとな作をつくるうとしてしま、芭蕉でもないたかだか小さな人間なのに(笑)。

**板橋** そうなんです、「○○にけり」とか無理に言ったり、知りもしない言葉を使ったりとかしちゃう。

**いとう** そうならないためには、人と一緒にやるっていうね。

**板橋** あとは穴埋め俳句をゲームとして、みんなでもっとも楽しそうですよ。単語が抜かれた俳句を書いたカードを箱の中に入れておいて、引いた人はカードの俳句を完成させないといけないとか。

**いとう** 何もなくても、お金いらずで楽しめる。こんな素敵なゲームはないと思うし、そもそも風流ってこういうことだったわけだからね。俳句だって、和歌を引きずりおろして地下(※7)の人たちが詠えるために起きた言語革命なのだから、ゲーム感覚でとらえた方がいい。あと須賀川市にも盆踊りがあ

## いとう・せいこう

1961年、東京都出身。クリエイターとして、活字／映像／舞台／音楽／ウェブなど、あらゆるジャンルに渡る幅広い表現活動を行っている。音楽家としてもジャパニーズヒップホップの先駆者として活躍し、カルチャーシーン全般に影響を与えた。1989年より「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」日本語俳句の審査員をつとめる。



## 須賀川市の皆さんには 俳句でもっと遊んでほしい

# 秋



**五十嵐心**  
須賀川市内小学生  
秋の頃、登校中に見た風景を俳句に詠みました。

**登校の列が乱れる稲雀**



**須田元大**  
須賀川特撮アーカイブセンター センター長  
須賀川特撮アーカイブセンター周辺では、10月後半から11月中旬にかけて稲刈りの終わった田んぼで稲わらを焼く、「わら焼き」が行われます。最盛期にはセンター周辺が煙に包まれ、収蔵庫の外壁に描かれている「スカキング」もけむたそうに見えます。その頃になると私たちは秋の深まりを感じて冬支度を始めます。

**わら焼きの煙にかすむスカキング**

**一句詠んでください 秋・冬編**

※所属・肩書きは発行当時



と思うけど、盆踊りで俳句を詠むの良いいませんか？ 櫓の上にマイクを一本おいて、みんなで次々と俳句を詠むの。  
板橋 それいい！ いいですよ！  
いとう 音頭はふつうの盆踊りの太鼓で構わないのだけど、春の句の人、夏の句の人と並んで、季節がうつろっていくようにする。  
板橋 それで終わった後に「おまえの句、マジで良かったよ！」みたいになるわけじゃないですか。おじいちゃんやおばあちゃんにも、若者たちが「マジで良かったッス！」って。  
いとう 逆におばあちゃんが若者に「あの句、素敵だったから家に帰って

句帳に書きちゃったのよ」とか。  
板橋 「マジっすか!？」って…アツいな〜！  
いとう 俳句もそういうコミュニケーションツールだったはずなんだから、その感覚を取り戻せばいいと思うんですよね。  
板橋 世代を越えたパーティーですもんね。  
いとう 『俳句おどり』って言えば、きつと抵抗感もないだろうし。しかも俳句を詠んで、櫓から下りたら、絶対に円になって踊り出すから！ で、その中にラッパーも交じったりもしてね。  
板橋 それ、いいですね！  
いとう 「須賀川レベゼン!」(※8)って言うてもらおう(笑)。  
板橋 完璧ですよ。すごい発明！ だって俳句とラップの魅力って、楽器もいらなくて、日本語を知っているだけで誰でもできるってことです。から。  
いとう 本当、本当。櫓の上にマイク一本立てておけばいいだけだから、すぐに実現できるよね。須賀川市の伝統行事である松明あかしと牡丹焚火が冬の季語として歳時記に収録されていると聞いてすごいなと驚いたけど、その2つに続くものとして俳句おどりが

# 冬



**名古谷諒**  
須賀川特撮アーカイブセンター 学芸員  
冬の午後、館内を巡回していると、窓ガラスの向こうには厳しい寒空の景色が広がっているにもかかわらず、頭上につるされた飛行機のミニチュアたちは力強く飛行していることに気づきました。  
その時の感動を詠んだ句になります。

**模型飛ぶ凍て雲望む窓を背に**



**深谷栄子**  
桔槔吟社  
須賀川には市の中央図書館、長沼図書館、岩沼図書館と3つの図書館があります。これは長沼図書館で見た風景です。冬休みの1日を仲良し3人が、図書館で過ごしついでにほほえましい光景に思わず1句作りしました。

**昼食は図書館の隅冬休み**



© 円谷プロ  
本市は、ウルトラマンの故郷「M78星雲 光の国」と姉妹都市です

# 翠ヶ丘公園

## MIDORIGAOKA PARK MAP

須賀川の季節「清明あかし」の会場である翠ヶ丘公園は、市の中心部にあり、日本の都市公園100選に県内で唯一選ばれています。野の花木を詠んだ歌が多い万葉集に登場する植物が詠み込まれた歌碑は園内に60か所も。



万葉歌碑道標



芭蕉ゆかりの地を紹介すかがわ絵地図



### ② 須賀川市立博物館

県内で最も早く開館した公立博物館。旧石器時代から続く須賀川の歴史や文化をジオラマや古地図などで知ることができます。



### ① Jadegreen cafe

2022年秋にできた森に囲まれたカフェ。7:00よりオープンしているので朝の散歩から楽しめる。

### ③ 温浴施設

再整備が進む翠ヶ丘公園に2023年春頃に温浴施設が誕生予定。

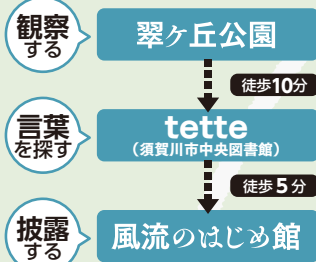
- 春：コジュケイ、桜
- 夏：カワセミ、おにやり、あげはちょう
- 秋：ヒヨドリ、セキレイ、モズ、われもこう、とんぼ
- 冬：カモ、雪景色

1時間程度の散歩で園内を一周できます。(約4km)  
※広さは30ヘクタール(東京ドームのおよそ6倍)

# 須賀川俳句散歩

風流のはじめのまちであなたも俳句をはじめませんか？

◎まずは観察からはじめましょう。自然豊かな翠ヶ丘公園で季節を感じ、感じたことや表現したい想いにぴったり当てはまる五七五の言葉や季語を探していきます。◎tetteの中央図書館には言葉探しのヒントとなる本がたくさん。俳句関連本のコーナーも充実しているのでぜひ活用しましょう！◎最後に、作った俳句を披露してみませんか？ 風流のはじめ館では様々な教室やイベントが開催され、俳句ポストに投函され選ばれた句が展示されています。



おにやり



われもこう

# 須賀川事典

## 俳句編

発行：2023年3月

### 須賀川市へのアクセス

- 🚗 車で来られる方へ（高速道路利用の場合）
- 東京方面から 約2時間30分（浦和IC→須賀川IC）
  - 仙台方面から 約1時間30分（仙台南IC→須賀川IC）
  - 新潟方面から 約2時間（新潟中央IC→須賀川IC）

- 🚆 列車で来られる方へ
- 東京～須賀川駅 約1時間40分（東北新幹線郡山駅乗り換え）
  - 仙台～須賀川駅 約1時間（東北新幹線郡山駅乗り換え）
  - 郡山～須賀川駅 約10分（東北本線）

- ✈️ 飛行機で来られる方へ
- 札幌～福島空港 約1時間20分
  - 大阪～福島空港 約1時間10分

【発行人】  
須賀川市企画政策部企画政策課  
【企画・編集・制作】  
森ビル株式会社  
【アートディレクション】  
大岡典典事務所  
【デザイン】  
鈴木陽々

【テキスト】  
林みき  
【写真】  
ただい（ゆかい）  
【表紙・マンガ】  
かつしかけいた  
【イラストマップ】  
武者小路晶子

須賀川市公式LINEアカウント

すかがわシティプロモーションサイト